実践クロス講座（短大：学外アートプロジェクト）

OMAMORI　PROJECT

九産大 × 造形短大 × 志賀島

kyushu sangyo university ／ kyushu sangyo university, zokei junior college of art and design ／ shikanoshima

私たちの想い

豊かな海は、豊かな山によって育まれる——
志賀海神社で毎年十一月十五日に斎行される「山誉漁猟祭」は、山と海の繋がりを讃え、自然の循環に感謝する祭礼です。また、『万葉集』の和歌には、志賀島の海人による藻塩作りがたびたび詠まれており、大切な人を思う心が藻塩に託されています。

「塩結守（えんむすびまもり）」は、こうした祭礼の思想や万葉歌をもとに、藻塩、地域素材、人々の思いを一つに結んだお守りです。

私たちは、土器作りから手がけた「藻塩」をお守りの御神体とし、綿や和紙などの天然素材、再生紙や廃棄プラスチック等を材料に用いました。特に、志賀島の海岸で拾った廃棄プラスチックを使うことで、「過去から現在、未来へ、豊かな海を私たちの手で守っていきたい」という思いを込めています。

海をめぐる問題が深刻化する今だからこそ、「塩結守」を通して、海を守り、地域の文化を次世代へ繋ぐきっかけを届けたいと考えています。

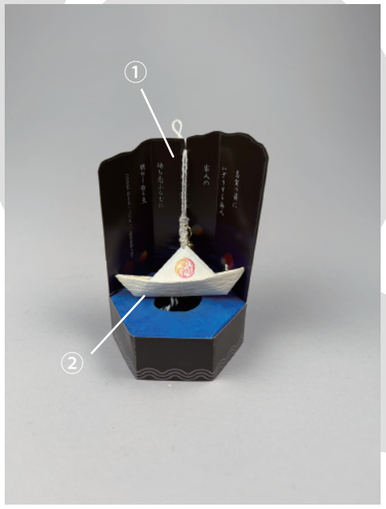
海人たちが、なぜ「山」を讃えるのか——。

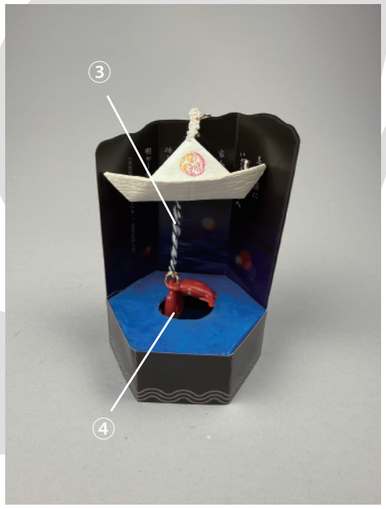
塩結守デザインの概要

再生紙と廃棄プラスチックでスタンドを制作しました。上部に志賀島の山容をかたどり、背景と台座で、万葉歌に詠まれた博多湾の夜の海と漁り火を表現しています。万葉歌が表す「意味」の世界を「形」に翻訳しながら、山の恵みが海へと繋がる姿をデザインしました。

①
組紐は、人と人の縁を結ぶ縁起物です。平編みには、ご縁が幾重にも重なり、固く結ばれるようにという願いを込めました。

③
古代の海人の営みに倣い、紡錘車で糸を紡いで組紐と漁網を作りました。糸には、古く海を意味した「ワタ」と同音の「綿」を用いています。





②
「志賀の海人」の舟をイメージした和紙の舟に、御神体（藻塩）を納めています。

④
廃棄プラスチックで制作した二匹の鯛は、山誉漁猟祭の詞「鯛釣る翁」にちなみ、夫婦円満を象徴する双魚の意匠としました。

大切な人とのご縁を繋ぐお守り
玄関などに置き、出発の際に鈴を鳴らしてお浄めください。バッグ等につけて携帯することもできます。

千三百年の時を超えて受け継がれる想い

古代から現代を結ぶ歌

志賀の浦にいざりする海人家人の待ち恋ふらむに明かしつる魚（万葉集 巻十五・三六五三、遣新羅使人）

（訳）志賀の浦（博多湾）で漁り火を灯して漁をする海人が、家の妻が待ち焦がれているだろうに、夜を明かして釣っているその魚よ。

天平八年（736）、新羅に派遣された人が筑紫の館（鴻臚館）で詠んだ歌。夜を徹して漁をする海人の姿に、長旅の途上にある我が身を重ね、家郷を恋しく思う心が詠まれています。

お守りプロジェクト公式アカウント

【文学 × デザイン ー過去を思い未来を創る新しい祈りのかたちー】
九州産業大学基礎教育センター（准教授、田中真理）と造形短期大学部（准教授、森下慎也）が、学部の枠を超えて取り組んでいるお守り制作プロジェクトです。

OMAMORI.PROJECT